

令和6年1月9日

研修報告

令和5年度市町村議会議員研修・第2回「防災と議員の役割」

日時 令和5年11月20日・21日
場所 全国市町村国際文化研修所（JIAM）
参加者 浅田康子・吉井敏恭

研修日程

①講義 「大規模地震災害の予測と対応策」

東京大学 名誉教授 平田 直 氏

関東大震災 100年を教訓とし、日本で起きた大地震の分析や、今後起きると懸念されている南海トラフ巨大地震、首都直下地震などの大規模地震災害の発生予測や被害想定・対応策などについて、科学的知見からの話

②講義 「平時の防災と議員の役割」

跡見学園女子大学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科
教授 鍵屋 一 氏

災害への対応は平時から意識し取り組んでおくことが必要である。この時間では、後半の演習の導入として、平時から議員として取り組むべき役割についての話

③演習 「平時の防災と議員の役割」

跡見学園女子大学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科
教授 鍵屋 一 氏

防災企業連合関西そなえ隊 幹事 湯井恵美子 氏

講義を踏まえ、平時における議員の役割について、ワールドカフェ形式による意見交換

④事例紹介「災害時における議会の対応と取組」

熊本県人吉市議会議員 徳川禎郁 氏

コーディネーター：跡見学園女子大学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科
教授 鍵屋 一 氏

平成28年熊本地震を教訓に、人吉市議会災害対応指針及び人吉市議会災害対応連絡会議設置要綱が制定された。指針及び要綱施行後、令和2年に記録的な大雨被害を受け、これらがどのように機能したのか、当時の状況と今後の課題などについて

⑤講義・演習 「災害時、復旧・復興期の議員の役割」

跡見学園女子大学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科
教授 鍵屋 一 氏

防災企業連合関西そなえ隊 幹事 湯井恵美子 氏

災害時および復旧・復興期における議員の役割についての講義後、グループに分かれて議員として何ができるかについて意見交換

⑥講義 ふりかえりとまとめ

跡見学園女子大学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科
教授 鍵屋 一 氏

防災企業連合関西そなえ隊 幹事 湯井恵美子 氏

所 感

浅田康子

大規模地震の例として東京都の首都直下地震が起きた場合の建物の全壊・焼失棟数・死者数などを想定された講義内容で、ひとつには老朽化した木造建築物が集積していると、震災時に甚大な被害が想定される。木造の家が多い地域では火災被害も予測されるが、人の暮らしが便利になったこと（暖房器具、IH）や耐震化が進んだことで出火率が減ったと考えられる等であった。

西脇市では大きな影響を及ぼすことが想定されている活断層として、御所谷断層帯がある（加東市から丹波篠山市に延び西脇市の南東部に位置する）。想定震度は6弱とされていて、建物被害の全壊が約270棟、半壊が約2,400棟、人的被害では死者約10人、負傷者約160人、避難者が約1,900人と想定されている。これらの被害を最小に防ぐため、普段から災害時の備えや防災訓練の実施の大切さ、自分は大丈夫との正常化の偏見などあらためて学ぶことが出来た。

ワークショップでは4～5人が一つのグループになり「大災害時に行政が効果的な対応をするために・・・平時にすべきこと」を話し合う。

- ・子どもの時から防災意識を高める教育を
- ・防災組織の広域連携。近くの市町村だけでなく、離れた自治体や企業との連携
- ・避難訓練を定期的に行う
- ・ボランティア受け入れ体制、方法、ルールを決めておくとしピーディーンな人員配置が出来るなど各班から成果物があり、忌憚のない意見交換ができた。

西脇市では西脇防災マップが令和3年に発行され各戸に配布されている。私も今一度、よく読んで災害時の心得と備えを確認すること。災害

時、議員として「すべきこと」「すべきでないこと」を再確認できたこと。

また、身近な人たち（隣保34軒）のことを把握して、災害時に助け合い（共助）が出来るよう繋がりを強くすること。

あたりまえのことがあたりまえに出来るよう防災の訓練、被災の意識を身に付ける大切さを学んだ研修であった。

所 感

吉井敏恭

私は平成30年7月豪雨において大雨特別警報が発令され、地元の集会所に一時避難所を開設し、35人の避難者を受け入れた経験もあり、「防災と議員の役割」について関心が深く令和3年4月の第1回に続く受講である。

西脇市では、河床掘削、井堰改築が行われ、平成16年の洪水被害と同規模の水量を安全に流すことが可能となった。しかし最近の線状降水帯による異常な降雨を見ると、これで十分なのか…心配は絶えない。

私は、防災・減災を考えると「十分の目安」とは、何なのかとの疑問を持ち続けている。

2011年の東日本大震災では大津波・火災などにより関東大震災、明治三陸地震につぐ3番目の被害をもたらした。幸い西脇市では、大津波の驚異はないものの、大規模地震の発生は予想される。

地震の事前防災は、建物の耐震化率の向上、家具転倒・落下防止対策の実施が重要である。発災後直ぐ避難も被害を最小限に留める効果がある。

肝心の議員としての役割は、平時において公助にも限界があることを胸に、防災計画や避難計画を行政とともに推し進めることである。

教育にも着目すべきである。高齢者、障がい者への配慮、福祉避難所も検討すべきである。また、自主防災会等とともに大規模訓練を実施すること、実際に避難所の設営等により課題をチェックし改善することが必要である。本市においても課題は山積している。

大規模災害発生時の意思決定の困難さは想像を絶する。平時の訓練と備えがなければ、危機への対処はほとんど失敗する。

自分にとって都合の悪い情報を無視したり、過小評価してしまうのが人間の特性である、正常化の偏見「自分は大丈夫」を打ち破ることが大切である。

危機を予防する力「被害抑止」と「対応準備」、危機に対応する力「発生する被害に対応し最小限に収める」ための議員活動に取り組みたい。